

あきたの 地域医療通信

2019年12月 第35号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医療人材対策室



医師不足が顕著である鹿角地域において、かづの厚生病院の櫻庭先生と大野先生に秋田で勤務されることを決めた理由や鹿角地域の医療についてお話を伺いました。

Q1. 先生が医師を目指したきっかけは。

【櫻庭先生】元々、人の心について興味があり、心理学について学んでいました。より詳しく学ぶにつれて、臨床の場で働くことを考え、医師となる道を選びました。

【大野先生】周囲で医師を目指す人が多かったのと、何か人の役に立ちたいという思いがあり、医師を目指しました。

Q2. 精神科を専門に選んだ理由は。

【櫻庭先生】心理学を学んでいたということもありましたが、学卒でもあり、他の先生よりも医師として働ける年数が少ないと考えました。そのため、手術など体力が求められる科よりも、精神科のように、心に寄り添う科が良いと思いました。

【大野先生】手術や手技を行うよりも、人の話を聞いたりする方が自分に合うと感じました。また外傷などのように、目に見える部分を治療することは少ないので、難しい部分はありますが、やりがいを感じました。

Q3. 秋田県で勤務されたきっかけは何でしたか。

【櫻庭先生】出身地が鹿角市の隣にある大館市なのですが、医師として一人前になったら、地元へ戻りたいと考えていました。秋田県は医師不足と聞いていたので、戻れば何か役に立てるのではと思いました。



かづの厚生病院 精神科

櫻庭 泰 先生 (右・秋田県大館市出身)
大野 正人 先生 (左・京都府京都市出身)

Q4. 大野先生は北海道の道の駅で、鹿角市のチラシを見たのがきっかけということでしたが。

【大野先生】旅をするのが好きで、日本中あるいは海外へよく出かけています。その中で、偶然、チラシを見つけ鹿角市の現状を知りました。学生の頃は基礎研究の道を志していたのですが、大学の実習で、長崎の離島に行ったのをきっかけに、地域医療に興味を持ちました。経験を積む意味で、大都市部で勤務をしていましたが、鹿角市の医師不足の記事を見て、助けになるのではと思いこちらにきました。

Q5. 先生方はそれぞれ大都市部での医療に携わっていらっしゃいましたが鹿角地域の医療について違いはありますか。

【櫻庭先生】 大都市部では、患者の状態次第では、簡単に他院への紹介をすることもできました。鹿角地域では開業医も少なく、当院で最後まで治療を行うことが多いです。ただ、臨床心理士などコメディカルの方が全体的に少ないため、専門的な検査等は近隣病院へ紹介しなければならないこともあります。精神科はチームで対応することが多いので、その点は不便と感ずることもあります。

【大野先生】 外来での診療だけではなく、行政、福祉と連携し、シンポジウムを行うなど、病院外での活動が増えました。大都市部に比べ、コミュニティが小さいので他職種とのつながりも良いと感じます。患者さんも人とのつながりが身につけている人が多く、礼儀正しい方が多いです。

【櫻庭先生】 我慢強い方も多いと思います。大都市部では気軽に一回受診して、フェードアウトする方が多いのですが、鹿角地域の患者さんは、大変な思いをされ、診てもらおうという決心を抱いてから受診される。途中フェードアウトされる方はほとんどいません。しかし、我慢強いというのが、逆に本人を辛くしている部分でもあると感じます。

Q6. 先生の今後の目標は何ですか。

【櫻庭先生】 大それた目標はありません。しかし、行政の方々と話す機会は多く、精神科医としての意見が、市政に反映されているのを感じます。すごくありがたい環境だと思います。そのため、診察室だけではなく、自分たちの技術を、いろいろな人たちと共有できるようになれば、地域の役に立てるのではないかと考えています。

【大野先生】 大都市に比べると、精神科に対する敷居が高いように思います。地域の方にも認知症や精神

疾患に関する知識を深めてもらい、我慢せず、抱え込まずに受診していただけるようにしたいです。

Q7. 次に若いうちに取り組んだ方が良いこと、体験しておけば良いことなどはありますか。

【櫻庭先生】 部活やサークル、あるいはアルバイトなど、いろいろな経験や体験を積んでおいた方が良いと思います。患者さんと会話する際、少しでも経験があれば相手の話や気持ちを理解できます。

【大野先生】 もちろん最低限の勉強は必要ですが、いろいろな社会経験を積むことが、将来の幅を広げると思います。

Q8. 最後に医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

【大野先生】 若いうちだからこそ、わからないことは積極的に聞いて欲しいです。わからないままやってしまうと失敗やミスにつながります。プライドを気にせず、勇気をもって、指導医の先生方に聞いて下さい。

【櫻庭先生】 精神科は、年齢に関係なく、医師として活躍できます。時間管理もしっかりできるので働きやすい科であると思います。

【大野先生】 また、患者さんを長く治療することが多いので、成人や就職、結婚など患者の人生に付き合っていくことが出来ます。喜びや悲しみも共有できるのが醍醐味の一つです。興味のある方は是非志してみてください。

櫻庭先生、大野先生、精神科や鹿角地域についてお話をさせていただきました！！



かづの厚生病院 外観

保健所勤務医師を募集しています

秋田県では、県内の保健所医師として勤務して下さる方を募集しています。

【応募資格】 公衆衛生行政に意欲と関心を持つ方で、採用時の年齢が65歳未満の医師免許を有する方。これまでの専門分野、行政経験等は問いません。

【勤務先】 県内8保健所（大館、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、横手、湯沢）

※詳細はこちらをご覧ください：秋田県公式 web サイト「美の国あきたネット」

県政情報  職員・採用案内  保健所勤務医師の募集について

応募については
随時受付しておりますので
お問い合わせください

【お問い合わせ先】

秋田県健康福祉部福祉政策課総務班 〒010-8570 秋田県秋田市山王4丁目1-1
電話：018-860-1311 FAX：018-860-3841 E-mail：welfare@pref.akita.lg.jp

研修医講習会を開催しました！

令和元年10月25日(金)、26日(土)の2日間、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に「第13回レジデント・スキルアップキャンプ2019」を開催しました。秋田県内の臨床研修病院の指導医による「ファーストタッチ・サーキットトレーニング」を行い、研修医が日頃思っている不安や悩みを共有し、「新たな発見の機会になった」と大変好評でした。

また、実際に各病院の研修医に症例発表をしてもらい、クイズ形式で答える「JOINT CASE CONFERENCE」や後期研修医等によるトークセッションもあり、参加された研修医の先生方は熱心に話を聞いていました。



イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先
2月 7日(金)	令和元年度第2回 秋田県臨床研修病院 合同説明会	医学生	秋田大学医学部 学生実習棟 2階チュートリアル室	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref. akita.lg.jp
3月 1日(日)	レジナビフェア2020 福岡	医学生	マリンメッセ福岡 (福岡市博多区)	
22日(日)	レジナビフェア スプリング2020 東京	医学生	東京ビックサイト (東京都江東区)	

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科 皮膚科・形成外科学講座

当科は秋田県内の総合病院や医院から多くの患者さんを紹介していただいています。皮膚癌、熱傷、乾癬、アトピー性皮膚炎など皮膚に関係する疾患のほぼ全てに対応しています。近年では高齢化により皮膚癌の患者さんが増えてきています。皮膚癌の中には、日単位で急激に増大し状況が悪くなる症例もあるので、診断から治療まで迅速に行うことを心がけて診療を行っています。また、ここ数年で乾癬やアトピー性皮膚炎などの患者さんに生物学的製剤による治療が認められるようになりました。生物学的製剤の登場により今まで難治であった症例でも改善が見込めるようになり、当科でも非常に力を入れている分野のひとつです。9月から河野通浩先生が教授として赴任しました。また、毎年

ように新人の先生が入局してくれています。医局員たちは未来に希望をもって医療・研究技術の向上のため日々鍛錬しています。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科 皮膚科学・形成外科学講座
医局長 山田 勝裕
e-mail: dermatol@med.akita-u.ac.jp
Tel: 018-834-1111 (病院代表)

指導医メッセージ

市立秋田総合病院
脳神経内科

大川 聡先生



「ライスワーク」=食べていくため。生活するために働くこと。
「ライフワーク」=自分の好きなことを仕事にして働くこと。
皆さんにとっての医業はどちらのイメージになりますでしょうか？ライフワークが理想であり、それに見合う科を見定めるのが研修期間と言って良いかもしれません。しかし医業のすべてがライフワークになる事はあり得ません。どの科に進

もうとも、組織に属する以上、ライスワークが一定の割合で待っています。日当直では様々な専門外疾患に対応しなければなりませんし、高齢者社会を反映し自分の専門科患者さんでも認知症症状への対応を迫られる事もあるかと思えます。

如何にライフワークをみつけるか、如何にライスワークに対応していくか、「わかる」はその際のキーワードと思います。研修の現場において皆さんには自分で解決できない事のできる限り具体的に抽出していただきたいです。指導医にとっては、答えを如何にわかりやすく伝えるかが大きな課題です。何が面白いのかが皆さんに伝わればライフワーク選択にも繋がるでしょうし、いつの間にかライスワークがライフワークになっている可能性もあるかと思えます。

簡単な事ではありませんが少しずつでも実践できるよう、指導医として日々精進しますので、皆さんよろしくお願いたします。

研修医メッセージ

市立横手病院
本郷 真伊先生
(秋田大学・山形県出身)



秋田大学卒業のため、現在横手で働いている時期を含めると、秋田歴7年目となりました。あまりにも秋田になじんでいたため、「研修医メッセージを県外出身の人にお願していたのですが…」と依頼を受けた時には、「わたし、県外出身ではないですよ。」と答えてしまったほどです。横手市は秋田市とは気候がやや異なりますが、出身地の山形

市と同じく盆地であり気候が似ているため、大変過ごしやすい日々を送っています。

市立横手病院の研修医室は医局と扉続きにあります。解放空間にあり色々な先生方が行きかうため、上級医の先生との垣根も低く、相談しやすいことがメリットです。研修プログラムは、2年目は丸々1年間自由選択です。少人数制で望みどおりに回ることが可能であるため、科を絞って選択科に深く関わることが魅力的です。百聞は一見にしかず。是非ご興味のある方は一度見学にお越しください。病院の関係者一同、歓迎致します。

MESSAGE



秋田労災病院

〒018-5604 秋田県大館市軽井沢下岱30 TEL: 0186-52-3131 HP: <http://akitah.johas.go.jp/>

当院は昭和28年(1953年)に開設し、今年で66年目を迎える歴史ある病院です。現在は21診療科(院内標榜含む)194床(稼働病床154床)で大館・鹿角医療圏における中核病院として勤労者医療及び地域医療に貢献しています。特に整形外科においては、秋田県でも数少ない無菌手術室(バイオクリンルーム)を利用した人工関節手術や脊椎・脊髄運動機能障害に対するinstrumentation手術を積極的に実施しております。また、リハビリテーション科と連携して患者さまの早期社会復帰を図っています。

外来部門では医療圏で不足している透析治療やスポーツレベルの多様性や障害・外傷の特殊性を十分に理解し早期復帰を目的としたスポーツ外来も開設しており、多くの患者さまに好評を得ています。来年は骨粗鬆症・フレイル予防外来を立上げ、地域の予防医療に介入できる取組を開始する予定です。

これからも地域に根差し地域住民に良質な医療を提供し、臨床研究では運動器疾患の治療と予防に寄与する学術的成果を得ることができるよう努めて参ります。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医療人材対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

